



英文法まとめておさらい#9

- 分詞構文 -

アハ！モーメンツ
Hiroshi Motai



分詞構文

分詞構文とは、「分詞を利用した文の短縮技法」と考えることができます。この技法が自分の作る英文で使えると、「英語らしさ」が確実にアップします。

- まず、簡単な具体例で見てください。
 - As I was sick in bed, *I couldn't attend the seminar.* (病気で寝込んでいたため、セミナーに参加出来なかった。)
 - 下線の部分が従属節で、主節(後半の斜体部)を修飾しています。
 - 従属節の中の、「接続詞+主語+動詞」を1つの「分詞」で置き換えることで短縮する。この場合は、“As I was”を、“Being”で置き換えます。結果として、
 - Being sick in bed, I couldn't attend the seminar.

一般的には次のように説明されます。

- 分詞構文とは、「分詞が、理由、時、条件、譲歩、結果、付帯状況などを表す従属節と同じ意味に使われる構文」のこと。
- 分詞構文の作り方の基本
 - 主節はそのままにしておく。
 - 従属節の中の接続詞を取り除く。
 - 従属節の中の動詞を分詞に置き換える。
 - 従属節の主語が、主節の主語と同じであれば、取り除く。

分詞構文...

- 分詞構文は、以下の観点での留意点が数多くあります。
 - 時制：主節と同じ時制なのか、前のことなのか。
 - 態：受動態では、*being*を省略することが多い。
 - 接続詞の取り扱い：強意を目的として、接続詞を残すことがあります。
 - 主語の取り扱い：分詞の意味上の主語と主節の主語が一致しない場合。⇒ 独立分詞構文
- 幾つかの例文で見てください。
 - After he had failed several times, he succeeded at last. (彼は、数回失敗した後、ようやく成功した。)
↓
 - Having failed several times, he succeeded at last. (主節よりも前に起きたこと)

 - As I am troubled with headaches, I cannot take an active interest in business. (頭痛で悩まされ、仕事に身が入らない。)
↓
 - (Being) troubled with headaches, I cannot take an active interest in business. (受動態)

 - The average car owner sits behind the wheel about 1,000 hours each year while he/she is driving from place to place. (平均的な車のオーナーは、あちこち移動するのに1年に1000時間程度ハンドルを握っています。)
↓
 - The average car owner sits behind the wheel about 1,000 hours each year while driving from place to place. (強意の目的で接続詞を残した例)

分詞構文...

- 前述したように、分詞構文は、理由、時、条件、譲歩、結果、付帯状況などを表します。以下、各々の例です。
 - 時 (when, while, afterなどの意味)
 - Having (=After I had) failed several times, I succeeded at last. (何度か失敗した後で、私はようやく成功した。)
 - 理由 (as, because, sinceなどの意味)
 - (Being)(=As I was) Tired, I went to bed early. (疲れていたなので、私は早めに床についた)
 - 条件 (ifの意味)
 - The same accident, happening (=if it should happen) in a large city, would be catastrophic. (同じことが大都会で起これば大惨事となったことだろう。)
 - 譲歩 (although, thoughの意味)
 - Accepting (=Although I accept) what he says, I still think he is wrong. (彼の言い分を認めるとしても、やはり彼 ^ 君は間違っていると思う。)
 - 結果 (andの意味)
 - The storm hit the city, causing (=and it caused) great damage. (嵐が街を襲い、多大な損害を与えた。)
 - 付帯状況
 - She sat there, watching television. (彼女は、テレビを見ながらそこに座っていた。)

分詞構文...独立分詞構文

- 独立分詞構文とは、分詞の意味上の主語が主節の主語と異なる場合です。分詞の意味上の主語を分詞の前に明記する場合としない場合があります。
- 分詞の意味上の主語を明記する場合
 - All things (being) considered (=When all things are considered), we should not take the risk. (すべてを考慮に入れると、我々は危険を冒すべきではない。)
 - The meeting (being) over, we spent some time having a chat. (会議が終わってから、私たちはしばらくおしゃべりした。)
- 分詞の意味上の主語を明記しない場合：分詞の意味上の主語が話し手自身であるか、一般の人々である場合は、明記されません。
 - Judging from what you say, he seems to be innocent. (あなたの話から判断すると、彼に罪はなさそうだ。)
 - Considering your ability, you should have done it better. (君の能力からすると、もっと良く出来たはずだ。)
 - Frankly speaking, it's difficult. (はっきり言って、難しい。)
 - Generally speaking, images of Japan in Korea are not positive. (一般的に言って、韓国での日本認識は良好なものではない。)